

令和 4 年度行政評価外部評価報告書 (案)

令和 年 月 日

江別市行政改革推進委員会

江別市長 三好 昇 様

江別市の行政評価に関して、行政改革推進委員会による外部評価を実施し、このたび
評価結果を取りまとめましたので報告いたします。

令和4年 月 日

江別市行政改革推進委員会

委員長	千	里	政	文
委員	吉	川	哲	生
委員	伊	藤	祥	子
委員	鈴	木		貢
委員	野	村	奈	津子
委員	白	川	典	子
委員	神	保	正	志

【目 次】

1	行政評価外部評価の目的	3
2	外部評価の基本方針	3
3	外部評価の実施方法	3
4	行政改革推進委員会の構成	5
5	外部評価の対象	5
6	行政改革推進委員会における外部評価に係る審議経過	6
7	令和4年度外部評価結果(総括)	6
	【えべつ未来戦略 戦略1】	
	にぎわいと活力を創出するまちづくり	
	(1) 地域資源の発掘と活用	
	観光振興計画推進事業	7
	(2) 農畜産物の高付加価値化	
	都市と農村交流事業	8
8	事務事業評価表	9

1 行政評価外部評価の目的

江別市行政評価制度において、評価の客観性及び信頼性を確保するために、行政外部の専門家及び市民の視点で評価を行うことを行政評価外部評価（以下「外部評価」という。）の目的とする。

2 外部評価の基本方針

平成27年2月に策定された「第6次江別市総合計画における行政評価外部評価制度のあり方検討結果報告書」（江別市行政評価外部評価委員会）に基づき、外部評価の基本方針を次のとおりとする。

外部評価の種類（方式）
内部評価結果の検証により、評価の質を向上させる分析強化型の手法を基本としつつ、必要に応じて事業の改善を求めていく市民協働型の要素も取り入れた方式とする。
外部評価の対象
「えべつ未来戦略」を基本的に外部評価の対象とし、必要に応じて「まちづくり政策」からも重要度等を勘案して対象事業として選定することができることとする。
外部評価の対象の選定方法
令和元年度中間見直し後の第6次総合計画における未来戦略は、3つの戦略で構成されているため、令和2年度から令和4年度までの3年間で3つの戦略を計画的に選定し、評価対象とする。

3 外部評価の実施方法

平成27年度から平成29年度にかけて第6次総合計画における前半5年間の未来戦略を対象とした外部評価（以下「前回評価」という。）を実施しており、前回評価と同様に、対象事業に係る事務事業評価表の精査及びヒアリング等により内部評価結果の検証を行う。

なお、平成30年1月に策定された「第6次江別市総合計画における行政評価外部評価結果報告書（平成27～29年度）」（江別市行政評価外部評価委員会）では、外部評価の実施方法に関する提言や、多くの事業に共通する指摘事項が示されていることから、これらの提言等を踏まえた実施方法とする。

【実施方法に関する提言内容（要旨）】

- 外部評価については、担当部局へのヒアリング調査を中心とした制度運用に取り組んでいただきたい。
- 外部評価結果については、翌年度の事務事業評価結果に反映させる運用となっているが、当該年度から反映できるような外部評価制度の設計を検討願う。

【実施方法の変更・改善点】

項目	変更・改善点
外部評価を実施する委員会	<p>市では、行政改革推進計画に外部評価の充実に向けて取り組むことを掲げていることから、同計画に基づき適正な外部評価が行われるよう、同計画を所管する行政改革推進委員会が外部評価を実施する。</p>
ヒアリングを中心とした外部評価	<p>前回評価では、未来戦略構成事業の全てを評価対象としたため、書面調査のみで外部評価を実施した事業が多数あったことと、ヒアリングを行った事業においても、事業数の多さから1事業あたりのヒアリング時間が短時間にとどまった。</p> <p>そのため、今回の外部評価では、評価する事業を抽出したうえで、評価事業全てに対してヒアリングを行うとともに、ヒアリングにあたって一定の時間を確保するよう努める。</p>
外部評価結果の迅速な反映	<p>前回評価では、評価事業が多数あったため評価作業に要する期間が長く、外部評価結果が取りまとまるのが年度末となり、評価結果に基づく改善が反映されるのは翌年度以降となっていた。</p> <p>今回は、評価事業を抽出することにより評価にかかる期間を短縮化し、可能な限り当該年度の内部評価（毎年2月頃に実施する新年度予算）から反映できるよう努める。</p>
外部評価の視点	<p>これまでの評価の視点を基本としつつ、前回評価で多く指摘されていた事項に係る検証を重点項目として追加する。</p> <p>【外部評価の視点】</p> <p>①市の資料・説明は丁寧で分かりやすいか <重点項目>・分かりにくい専門用語や説明不足の有無 ・事業を取り巻く状況についての適切な説明</p> <p>②対象・意図・手段のつながりは適切か</p> <p>③成果指標の変動要因や事業の課題の把握ができているか <重点項目>・進捗状況を示す適切な指標の設定 ・数値で表すことができない成果の文章説明</p> <p>④戦略プロジェクト等の方向を示す指標は適切か</p>

4 行政改革推進委員会の構成

人数：7名

任期：令和2年10月16日～令和5年3月31日

役職	氏名	所属団体等
委員長	千里政文	北翔大学生涯学習学研究科 教授
委員	吉川哲生	札幌学院大学経済経営学部 准教授
委員	伊藤祥子	江別消費者協会 事務局長
委員	鈴木貢	連合北海道江別地区連合 副会長
委員	野村奈津子	札幌司法書士会 司法書士
委員	白川典子	公募委員
委員	神保正志	公募委員

5 外部評価の対象

これまでの外部評価の実施実績等を勘案し、令和2年度は戦略3、令和3年度は戦略2、令和4年度は戦略1について外部評価を実施することとした。

また、令和4年度の外部評価について、未来戦略上の位置付け等を勘案し、戦略1に掲げる2つの具体的施策のうち（1）地域資源の発掘と活用から「観光振興計画推進事業」、（2）農畜産物の高付加価値化から「都市と農村交流事業」を対象事業として選定した。

【令和4年度外部評価対象事業】

戦略1 にぎわいと活力を創出するまちづくり	対象
（1）地域資源の発掘と活用	
観光振興計画推進事業	○
地域発見魅力発信事業	
江別アンテナショップGET'S管理運営事業	
（2）農畜産物の高付加価値化	
都市と農村交流事業	○
江別農畜産物ブランディング事業	

6 行政改革推進委員会における外部評価に係る審議経過

日 時	内 容
令和4年 10月18日(火) 午前10時 ～午前10時56分	【第1回江別市行政改革推進委員会】 ・行政評価外部評価の実施スケジュールについて
令和4年 11月11日(金) 午前10時 ～午前11時25分	【第2回江別市行政改革推進委員会】 ・行政評価外部評価ヒアリング ①観光振興計画推進事業 ②都市と農村交流事業
令和4年 12月14日(水) 書面会議	【第3回江別市行政改革推進委員会】 ・行政評価外部評価結果の取りまとめ

7 令和4年度外部評価結果（総括）

(1) 各事業に対する提言

観光振興計画推進事業の「成果動向及び原因分析」欄について、新型コロナウイルス感染症の流行下においても一定の成果が上がっていることから、記載の仕方に工夫の余地があると感じるという意見があった。

なお、各事業に対する評価結果は、7～8ページに記載のとおりである。

(2) その他の提言

事業を実施するに当たっては、組織や施策間の連携が重要であるという意見があった。

令和4年度行政評価外部評価結果

戦略	1 (1) 地域資源の発掘と活用
事業名	観光振興計画推進事業
担当課	経済部観光振興課
内部評価への提言等	<p>【視点①】 事務事業評価表のわかりやすさ <重点項目> 分かりにくい専門用語や説明不足の有無 事業を取り巻く状況についての適切な説明</p>
	<p>【提言①】 ・ 提言等なし</p>
	<p>【視点②】 対象・意図・手段の設定</p>
	<p>【提言②】 ・ 事業の対象者を「江別市外の人」としているが、江別市民も事業の対象とすることについて検討の余地がある。</p>
	<p>【視点③】 成果指標の変動要因や事業の課題の把握 <重点項目> 進捗状況を示す適切な指標の設定 数値で表すことができない成果の文章説明</p>
	<p>【提言③】 ・ 「成果動向及び原因分析」欄において、「上がっていない」と自己評価しているが、新型コロナウイルス感染症の流行下においても一定の成果が上がっていることから、記載の仕方に工夫の余地があると感じる。</p>
	<p>【視点④】 事業の方向を示す指標は適切か</p>
<p>【提言④】 ・ 提言等なし</p>	

その他の意見・提言
<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光施策を進めるに当たっては、まずは市民が市の魅力や観光スポット等を知ることが必要だと思う。 ・ デジタル技術等を活用して、広く事業を周知することが必要だと思う。 ・ 「イラストマップ」は、非常に良い媒体なので、多くの方に見てもらおうための方策を検討してほしい。 ・ 事業の実施に当たっては、様々な組織や施策と連携していくことが重要である。

令和4年度行政評価外部評価結果

戦略	1（2）農畜産物の高付加価値化
事業名	都市と農村交流事業
担当課	経済部農業振興課
内部評価への提言等	【視点①】 事務事業評価表のわかりやすさ <重点項目> 分かりにくい専門用語や説明不足の有無 事業を取り巻く状況についての適切な説明
	【提言①】 ・ 提言等なし
	【視点②】 対象・意図・手段の設定
	【提言②】 ・ 提言等なし
	【視点③】 成果指標の変動要因や事業の課題の把握 <重点項目> 進捗状況を示す適切な指標の設定 数値で表すことができない成果の文章説明
	【提言③】 ・ 提言等なし
	【視点④】 事業の方向を示す指標は適切か
	【提言④】 ・ 提言等なし

その他の意見・提言 <ul style="list-style-type: none"> ・ イベントの満足度を把握する際には、引き続き、改善点や問題点の把握に努め、イベント内容に磨きをかけてほしい。 ・ 令和3年度においては、活用されていない事業があることから、本事業を必要としている者に対して、引き続き、情報発信に努めてほしい。 ・ 事業の実施に当たっては、様々な組織や施策と連携していくことが重要である。

8 えべつ未来戦略 戦略1 事務事業評価表

【令和4年度外部評価対象事業】

- (1) 地域資源の発掘と活用
 - ・観光振興計画推進事業
- (2) 農畜産物の高付加価値化
 - ・都市と農村交流事業

事業名：観光振興計画推進事業

観光振興課 主査(観光振興)

政策	02 産業	戦略	1 にぎわいと活力を創出するまちづくり						
取組の基本方針	03 観光による産業の振興	具体的施策	(1) 地域資源の発掘と活用						
開始年度	平成28年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	補助	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

江別市外の人

指標名		単位	元年度実績	2年度実績	3年度実績	4年度当初
対象指標 1	江別市外の人(把握困難)	人	0	0	0	0
対象指標 2						

手段(事務事業の内容、手法)

江別市観光振興計画に基づき、新たな観光商品の開発やPRによる観光誘客を図るほか、計画推進のための観光人材の育成、推進体制の検討等を実施する。

指標名		単位	元年度実績	2年度実績	3年度実績	4年度当初
活動指標 1	事業実施件数	件	9	8	7	6
活動指標 2	観光人材育成セミナー開催回数	回	3	2	1	1

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

観光振興計画に基づく新たな地域資源の活用や情報発信を実施し、道央圏からの誘客による交流人口の増加を図るほか、観光人材の育成や推進体制を検討し観光振興計画の推進を図る。

指標名		単位	元年度実績	2年度実績	3年度実績	4年度当初
成果指標 1	観光入込客数	人	1,190,090	1,361,201	1,216,970	1,361,201
成果指標 2						

事業費の推移		単位	元年度実績	2年度実績	3年度実績	4年度当初
事業費(A)		千円	10,256	7,185	8,298	11,685
正職員人件費(B)		千円	7,687	11,444	10,650	3,884
総事業費(A+B)		千円	17,943	18,629	18,948	15,569

	事業内容(主なもの)	費用内訳(主なもの)
3年度	<ul style="list-style-type: none"> レンタサイクル事業 市外プロモーションの開催 観光人材育成セミナーの開催 リアル謎解きゲームの開催 観光イラストマップの更新 産業連携新商品開発支援補助金 観光PR動画制作 	<ul style="list-style-type: none"> レンタサイクル事業費 1,863千円 市外プロモーション事業費 495千円 観光人材育成セミナー委託料 297千円 リアル謎解きゲーム委託料 2,618千円 観光イラストマップ更新費 720千円 産業連携新商品開発支援補助金 1,937千円 観光PR動画制作費 298千円

事業開始背景

江別市の交流人口を増やし地域経済を活性化するために、実際に江別市に来てもらい、まちを知ってもらうことが重要であるため、市民・観光関連事業者・行政など江別市の観光に携わる全ての人が連携し、平成29年度に策定した江別市観光振興計画に基づき、効果的な観光振興の取組を行うものである。

事業を取り巻く環境変化

新型コロナウイルス感染症の拡大により、市をまたぐ移動や不要不急の外出を控えるよう国や道から要請があり、観光需要は感染拡大前より大きく減少している。一方で、感染拡大防止のための新しい生活様式を守りながら、密を回避し、少人数・近場・巣ごもり・オンライン・テイクアウトといったキーワードでの消費需要が高まっている。
また、観光振興計画の具現化を図る民間の中心的組織としての役割を担うため、令和3年10月に江別観光協会が法人化し、一般社団法人えべつ観光協会となった。

令和3年度の実績による担当課の評価（令和4年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？			
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	観光シーズンである5月中旬から9月末にかけて、新型コロナウイルス感染症が拡大し、不要不急の外出や市外との往来を控えるよう国や道から要請があったことから、観光入込客数は減少した。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？			
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	観光振興計画に基づいた事業は、市全体の観光振興・地域経済等の活性化につながるため、市民、民間、行政が役割を分担しつつ連携し、自主的・積極的に取り組んでいくことで、更なる観光振興の向上へつながる余地がある。また、江別観光協会が一般社団法人化したことで、民間の柔軟な発想を取り入れた観光振興計画の推進が期待できる。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？			
コスト	ある	理由 根拠	観光を取り巻く状況は大きく変化しており、観光振興計画に基づく事業の推進により成果指標である観光入込客数の維持又は増加を図るには、一定のコストが必要である。
	なし		

事業名：都市と農村交流事業

農業振興課 農畜産係

政策	02 産業	戦略	1 にぎわいと活力を創出するまちづくり						
取組の基本方針	01 都市型農業の推進	具体的施策	(2) 農畜産物の高付加価値化						
開始年度	平成18年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

市内農業者及び市民

指標名		単位	元年度実績	2年度実績	3年度実績	4年度当初
対象指標 1	市内農業者	人	924	882	882	882
対象指標 2	市民	人	119,510	119,883	119,777	119,777

手段(事務事業の内容、手法)

「江別市農畜産園芸振興事業補助規則」に基づき、都市と農村の交流事業に対して補助する。

指標名		単位	元年度実績	2年度実績	3年度実績	4年度当初
活動指標 1	イベント開催回数	回	15	6	6	11
活動指標 2	各部会等開催回数	回	8	7	9	10

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

生産者と消費者との相互理解を深め、グリーンツーリズム関連施設(農作業体験施設、農家レストラン、農産物直売所など)の利用増を図ることで、市民の地産地消や農村地域の活性化につなげる。

指標名		単位	元年度実績	2年度実績	3年度実績	4年度当初
成果指標 1	グリーンツーリズム関連施設の利用者数	人	596,862	545,905	615,351	598,000
成果指標 2	イベント参加者の満足度	%	100	100	100	100

事業費の推移		単位	元年度実績	2年度実績	3年度実績	4年度当初
事業費(A)		千円	1,010	976	824	1,700
正職員人件費(B)		千円	5,381	5,340	5,325	5,438
総事業費(A+B)		千円	6,391	6,316	6,149	7,138

事業内容(主なもの)		費用内訳(主なもの)	
3年度	<ul style="list-style-type: none"> 江別「まち」と「むら」の交流推進協議会への補助(協議会の事業内容:野菜作り講習会開催、江別を食べよう!キャンペーン実施、直売所MAP作成、農産物加工品ブランド認証シール作成、加工品フェア開催など) 6次産業化支援のための農業者等への補助 	<ul style="list-style-type: none"> 協議会への補助 	824千円

事業開始背景
農業への関心を高めてもらう機会を提供する場として、産地直売所や貸し農園（観光農園）などを通じた「まち」と「むら」のふれあい交流・体験活動を行うという市内の産地直売所17ヶ所と貸し農園6ヶ所により、江別市「まち」と「むら」の交流推進協議会が平成17年5月24日に設立された。
事業を取り巻く環境変化
消費者との交流を図りながら、ニーズに応えた活動を展開している。令和2年からは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人流の抑制等が求められる状況にある。

令和3年度の実績による担当課の評価（令和4年度7月時点）		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	理由根拠	<p>施設の利用者数については、干ばつによる作物の不作や価格の乱高下の影響で減少した施設もあるが、新たに直売所がオープンしたことにより、全体数は増加している。イベントは、新型コロナウイルスの影響によって計画どおり実施できなかったが、開催できたイベントは引き続き高い満足度を得た。</p>
成果向上余地	理由根拠	<p>新型コロナウイルスの感染者数が増減を繰り返している中で、この状況下でもできる範囲でイベントを再開しているものの、天候や物価によっても施設利用者数は変動するため、利用者数を大きく増加させていくことは難しい。今後も様々な手法で情報発信等を継続していくことが重要であるとする。</p>
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
コスト	理由根拠	<p>各種イベント等の開催に係る必要最低限のコストで実施しているため、これ以上のコスト削減は難しい。</p>
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	理由根拠	<p>ある</p> <p>なし</p>

